



みやこ町犀川本庄、ドローンにて撮影 2021年9月

仏法領

ぶつぽうりょう

第85号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒824-0202

福岡県京都郡みやこ町犀川上高屋761

☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ

nenshinji.org

「人とお別れ」

コロナウイルスの蔓延で世界中で、生活様式が変化した。

人とお別れも、その一つかもしれない。家族葬を選ぶ家族、あえて逝去を知らせない事もある。とても寂しい事です。

最後のお別れを言えない、亡くなられた方を偲んで、思い出話も出来ない。親戚が集う事も出来ない。

これまで、冠婚葬祭の中で日頃会えない人を気遣い、成長や老いも感じていた。

あたり前だった事が、出来なくなっている現実がここにある。人類は今まで、幾度となく疫病に立ち向かい克服してきた。

コロナウイルスなんかに、負けるわけにはいかない。人としての生活を取り戻すために一人一人が、色んな事に向き合う必要性を感じている。



浄真寺の仏具、燭台の足の亀

コロナ下の仏事

コロナウイルスが流行ってから、最近はおく近親者での葬儀ばかりになりました。コロナが収まっても、おそらくバブルの頃のような盛大な葬儀にはならないでしょう。時代社会ができるだけ人とかかわらず合理的に済みます風潮のようです。

現世的なものを重んじる風潮や少子化・核家族化の影響もあり、お寺とおつきあひも少しずつ薄れてきているようです。

左の写真には本庄地区の浄真寺が写っています。公民館・旧犀川町役場前の道は、地元では「新道^{しんみち}」と言って主な道路になっています。以前はおそらく浄真寺の前が山鹿方面から抜ける街道筋だったと思いますが、現在は少し奥まった場所になっています。時代社会の移り変わりとともに、あたりまえですが生活の仕方も変わります。

右上写真の燭台の亀は浄真寺に伝わる仏具で、寄付されたものです。見てみると、熱心な同行さんたちを思い出しその温もりが伝わってきます。生きることの辛さ、悲しさ、温かさがあります。本当に大切なものは何かを訴えかけています。

生活の仕方は変わっても、生きていく本質は変わりません。大切なものを選び取る岐路に今さしかかっているようです。



旧街道

浄真寺

